

事例8 「書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章を書くこと」をねらった事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 [思考力、判断力、表現力等] B書くこと
- 事例のポイント
 - ① ICT端末を活用して、加除修正を繰り返しながら書いたり、随筆をグループ内で共有して助言し合ったりすることができるようにする。
 - ② 小グループでの学び合い等、他者と協働することによって、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
 - ③ 自分の文章のよいところに気付くことで、自らの学習に自信をもてるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

- ・書きたいことについての情報を集める場面
- ・随筆の構成を考える場面
- ・随筆を交流する場面

ICT活用の利点

- ① 互いの考えを適宜共有することができる。
- ② 順序の入れ替えや内容の修正の負担感が少ない。
- ③ 自分に適した執筆方法を選ぶことで、個別最適な学びにつながる。

- 1 単元名・教材名 心に響いた瞬間を文章に～1年間のふりかえりを通して～
「構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く」

2 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、1学期に「項目を立てて書く」、2学期に「根拠を明確にして書く」という学習をしている。その学習で自身の考えをまとめたり、複数の媒体から資料を選んで自分の考えを書いたりするなど、読み取ったことや学んだことを表現する活動を繰り返し行ってきた。その際には、ICT機器を十分に活用し、文章の構成や展開について考えを深めることができている。しかし、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の問題において、無解答率が全国平均を大きく上回ってしまった。

本単元ではB(1)イ「書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。」に重点を置いて指導する。「中学校での1年間」という身近なテーマで随筆を書く活動を設定することで、生徒の作文に対する苦手意識を軽減し、書く能力の一層の向上を図る。

指導に当たっては、生徒が既習事項を想起できるようにしながら、自分の心情やその変化、見いだした出来事の価値や意味などについても書くことができるよう支援する。その際、ICT機器を活用して、他者の考えに触れる機会を多く得られるようにするとともに、加除修正を繰り返しながら書くことができるようにすることで、生徒の語感を磨き、書く能力の向上を図りたい。以上のことから、本単元を設定した。

3 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
〈知識及び技能〉(1)ウ
- (2) 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)イ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

随筆で、感じたことや考えたことを書く活動。(関連：言語活動例ウ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	①「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	①粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全5時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○随筆の題材を選ぶ。 ○具体的な随筆の材料を書き出して整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通し ○題材の選び方 ○材料の整理の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「事実」 ・「当時の思い」 ・「現在の視点」 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆の作成計画や字数、書き出しや描写を工夫することを確認し、見通しをもつことができるようにする。 ○これまでの中学校生活の思い出について想起できるようにすることで、学習への意欲付けを図る。 <p style="text-align: center;">編 P36 指導計画作成の留意事項(12)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆の構成を考える。 ○考えた随筆の構成について交流する。 <p>事例のポイント① ICT端末を活用して、加除修正を繰り返しながら書いたり、随筆をグループ内で共有して助言し合ったりすることができるようにする。</p> <p>ICT活用の利点① デジタル付箋を活用し、自分のグループ以外の仲間の意見も参考にしながら、随筆の構成についての考えを確かなものにできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・具体的な体験 ・意味付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ例を示し、随筆の構成を考える段階に移りやすくする。 ○オンライン上での共有(ミライシード、ふきだしくんなどの活用)や3～4人組のグループで助言し合うことで、理解を深められるようにする。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 観察・ワークシート ここでは、複数の構成案を考え、比較し、伝えたいことが伝わる随筆を書こうとしているかを観察する。</p> <p style="text-align: center;">編 P35・36 指導計画作成の留意事項(2)(8)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆を書き始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○描写の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・情景描写 ・行動描写 ・心情描写 ・五感を通した描 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン上(ミライシード、ふきだしくんなど)で共有しながら書き出すよう助言する。 ○読み手が状況をイメージできるように、具体的に書くよう指導する。

3	<p>写 ・その他</p>		<p>編 P36 指導計画作成の留意事項(8)</p> <p>【知識・技能①】 ICT端末（ワークシート） ここでは、体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っているかどうかを確認する。</p>
4	<p>○書き出しと結びを工夫し、随筆を仕上げる。 ○4人組のグループを作り、随筆を読み合う。</p> <p>ICT活用の利点① デジタル付箋を活用し、自分のグループ以外の仲間の意見も参考にしながら、随筆の構成についての考えを確かなものにできるようにする。</p> <p>事例のポイント② 小グループでの学び合い等、他者と協働することによって、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。</p>	<p>○随筆の書き出し方 ・枠組みから ・描写から ・会話から ・心の声から ・自分の考えから ・その他</p> <p>○随筆の結び方 ・今にして思えば…… ・私にとって○○は…… ・それ以来、○○するたびに、…… ・その他</p>	<p>○「書き出し方」「結びの具体的な例」を参考にしながら、必要に応じて修正するよう促す。</p> <p>ICT活用の利点② 手書きに比べ、順序の入れ替えや内容の修正が容易であるため、文章の構成や展開について考えを深めやすくなる。</p> <p>○オンライン上（ミライシード、ふきだしくんなど）で共有しながら書き出し、学び合えるようにする。</p> <p>編 P36 指導計画作成の留意事項(8)</p> <p>【思考・判断・表現①】 ICT端末（ワークシート） ここでは、体験に基づいた自分の考えを伝えるために、導入と具体的な体験談との意味付けの構成が工夫できているかどうかを確認する。</p>
5	<p>○随筆を読み合い、学習を振り返る。</p> <p>事例のポイント③ 他者の助言を受け、自分の文章のよいところに気付くことで、自らの学習に自信をもてるようにする。</p>	<p>○随筆の構成や書き方 ○描写の工夫や表現の仕方 ○他教科での活かし方</p>	<p>○第2時のグループで読み合う場を設定することで、助言した相手の作品が、実際にどのように完成したのか興味をもって読むことができるようにする。 ○教科書にある観点に沿って、メモをとりながら読むよう助言する。 ○他教科で行う作文やレポート作り等でも、本時の内容が活用できることを助言する。</p> <p>編 P35 指導計画作成の留意事項(3)</p>

7 本時の学習指導（本時4／5時）

(1) 目標

- 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考
えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉 B(1)イ

(2) 評価規準

- 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して
文章の構成や展開を考えている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。 書き出しと結びを工夫し、随筆を仕上げよう。	○本時の学習内容	○第2時・第3時の学習内容を振り返り、それぞれの時間に考えた構成に着目できるようにする。	2
2 資料をもとに、随筆の書き出し方・結び方について考える。	○印象に残る書き出し方 ○体験を意味付ける表現の仕方	○「書き出し方」「結びの具体的な例」を参考にしながら、随筆を書くよう促す。	3
<p>〈書き出し方の例〉 「枠組みから書き出す」「描写から書き出す」「会話・心の声から書き出す」「自分の考えから書き出す」など 〈結びの具体的な例〉 「今にして思えば、……。」「私にとって〇〇は、……。」「〇〇を体験したあの日から、私は……に変わった。」「それ以来、……するたび、あの日のことを思い出す。」</p>			
3 書き出し方や結び方を工夫して随筆を書く。	○段落の役割 ○書き出しや結びの工夫の仕方	○辞書、資料集などの紙の資料に加え、 <u>3～4人組のグループやオンライン上で随筆を共有（ミライシード、ふきだしくんなど）し、他者の書き方も参考に<u>して学べるようにする。</u></u>	15
<p>事例のポイント② いつでも他者の随筆を参照できる環境を整えることで、執筆の困り感を軽減し、言葉がもつ価値をより認識しやすくする。</p>		<p>編 P36 指導計画作成の留意事項(8)</p>	
<p>〈書き出しの例〉 肌が焼けるような暑さのもと、サッカーに励んでいた7月の昼下がり。双子が生まれた日のことは、今でも鮮明に覚えている。 〈結びの例〉 今ではすっかり元気な二人。よく言い争いもしている。しかし、あの日のことを思い出すと、自然とおだやかな気持ちになる。私にとってあの昼下がり、命の誕生の尊さを感じた、初めての時間だったように思う。</p>			
4 随筆を読み合う。	○文章の構成や展開の仕方	○この学習で学んだ「構成」「書き出し」「結び」「描写」について特に注意して読むよう注意を促す。	15

<p>ICT活用の利点① デジタル付箋を活用し、自分のグループ以外の友達の意見も参考にしながら、随筆の構成についての考えを確かなものにできるようにする。</p>		<p>○デジタル付箋やコメント機能を活用して、互いの文章のよいところを伝え合い、自分に適した表現方法が選びやすくなるようにする。</p>	
<p>5 随筆を仕上げる。</p>	<p>○文章の構成や展開の仕方</p>	<p>○適切な段落分けができているか、書き出し、具体的な体験、結びの展開の仕方かどうか等の観点で読み返し、必要に応じて修正するよう促す。</p>	<p>10</p>
<p>ICT活用の利点② 手書きに比べ、順序の入れ替えや内容の修正が容易であるため、文章の構成や展開について考えを深めやすくなる。</p>		<p>○随筆について、内容を確認したり、より分かりやすい表現に改めたりするよう促す。</p>	
<p>6 学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りの仕方</p>	<p>評価規準 ◆思考・判断・表現① ワークシート（クラウド環境への入力内容） 体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書き出しや結びを工夫することができているか確認する。 〈努力を要する状況（C）への手立て〉 教科書の例文や教師の例文などの資料を提供し、自分の言葉に変えながら原稿を書くように指導する。</p>	<p>5</p>
<p>〈期待される生徒の振り返り〉 ・文章を書くときには、こだわって言葉を選んだりあえて語順を入れ替えたりするなどの工夫をすると、相手に伝わりやすく、読んでいて面白い文章が書けることを学んだ。 ・友達と交流し、友達の文章を読むことで、季節を連想させる言葉から書き出すという工夫や、自分では気付かなかった、「意味付けが上手」「まとめ方がうまい」という自分の強みにも気付くことができた。これから文章を書くときには、今回学んだことを生かして、様々な書き方を試していきたい。</p>		<p>○生徒が本時の学習を通して、どのように学んだか、気付いたことや考えたことを振り返り、説得力のある文章を書くことができるようになったことを実感できるようにする。 ○単元全体の学びを振り返り、読み合って見つけた互いの文章のよさを、これから文章を書くときに生かせるようにする。</p>	

編 P36 指導計画作成の留意事項(8)

評価規準
◆思考・判断・表現①
ワークシート（クラウド環境への入力内容）
体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書き出しや結びを工夫することができているか確認する。
〈努力を要する状況（C）への手立て〉
教科書の例文や教師の例文などの資料を提供し、自分の言葉に変えながら原稿を書くように指導する。

編 P35 指導計画作成の留意事項(3)